

林内閣々僚の横顔

林銃十郎大將は昭治九年に賀蘭士林改々郎の長子として生れ、幼にして嚴格が父より武道の手ほどきを受け、十歳の頃にはすでに十八史略、日本外史などの累読互得意とした。十六七歳の中學時代一家は石動に住んでゐたので中學の寄宿生活をしてゐたが毎週土曜日必ず金沢の中學から帰省するのを樂みしてゐたが石動へ行くには名にし貢小浪利加羅昨の喰所を通り片道八里の道を歩かれはあらぬ、どうして今夜道をかけて強行軍に出されはあらぬ、彼は色々詩吟を試みり、嘆く涙る眞利加羅の喰を突破し帰宅するや而親の前にひだと両手を左りて、銃十郎只今帰りました。御両親様にはお変りなござりませぬか」と先づ両親の安否を問ふのを第一の務めとした。

に當然と待て受けみた老母堂の
両眸にはこの一瞬さつと白玉の虹
日本への母はまさに林澤子力自ら
あらう、やがて

日清戰役 に刺殺され彼は
退院して上京 茶園社高等学校に入
りた 同期生り一人に宇垣大將相
國勇士の林弥三吉中將がのたのは
皮肉である 仙宮学校卒へた彼は
は郷里の聯隊へ勤務することにあ
つたが、苦み走つた彼の風貌は東
新地の藝者の血を沸かせるに充分
でありた、遂に誰が眞先に林中尉
立とのべするか 競争すると云ふ
熱の上り方であつたが、林中尉隨
諸士す 懸念が

「貴様どうしき振膳に箸をどりん
のぢや」

「からかふと彼は
上一喝した そして当時の年九師
團長大島中將令嬢の三國一の花嫁
に擬せられたが、岳父のお蔭で出
世するのはイヤだと断つたのと
この時代、

尉は最後の一線を死守し進めた。大尉の号令へ下、兩翼の敵軍の山左手リノハ砲台に肉迫する爆破六勇士、爆薬瓦斯に冒んだ津田曹長は最先に立りて敵塹目撃けて投げ込み一方の血路を開いた。敵はこの奇襲に狼狽、算左乱して逃れ六勇士は到頭砲台奪取の一聲名乗リ左上小旅順占領の策地を作った。己が手雷彈の先駆で、林大尉は乃木大將から懸賞金授けられた。やがて彼は佐倉歩兵第九十七

期の命令だ。然し軍態一刻の躊躇も許されぬ。出さう、出動命令だ。

副官は驚いた。

統率命令を待たずに軍の行動を起すのは不穏に思ひますが……”

“断るの字あるのみぢや、この一言で嘉村旅團は弦を放以て矢よりと早く鶴ヶ江を走り、ゆが開東軍本拠ふきを奪た。“越境事件”として有名なこの同時に

”越境將軍”決斷専行居士のニツクネームが生れた。將軍は流石に事後の上奏が御可にあらぬ場合は一命を以て起訴のお詫びを申上げる考へであつたと云ふ。この断行の氣象は彼が陸相時代、眞崎教育總監被免と云ふ謹い切口味上ふつて表れた。今日非常時局を拡当したのと恐らく果樹の氣性互質はれでのであらう。

五一五事件の直後、荒木陸相から後方に就くこの急報を受け朝鮮から韓國するまで、貴族やれ、貴族こそやれ、と三十何本の電報合戦を演じたことは周知の事実だが、荒木陸相の留仕ときまつて、林大將は教育總監に廻つた。

入とあり今日に至つた、
趣味は刀剣、龍商と号して書を
よくし（昨年の事変後、詩軒）と
改めた。一ころは蘆球に熱中して
二百余りとついたことがある。酒
は一滴と飲もありが、大のタバコ
党で、一日に數島五三筋び、布丁
る。そのための髪がニコチン
色に変色してゐる程だ。五十一才
の初治夫へとの間に四男四女あり、
家に帰れば親孝行、子煩惱、歌五
出いは衆断尋行。これが林大將
の眞面目であらうか（此の項終り）

旅順盤龍山砲台攻撃、大日本帝国の軍官と並びて出征した
軍はハライマックスに達し、

大校長、近衛師團長と緊連して朝鮮軍司令官となりた。昭和六年の勅令だ。時を移すと本庄

次で黒田參議官とあり、高麗時任
兩内閣の



27 de Marzo de 1937

El "Argentin Djijo"

Año XIV No. 673 (6)

ルマニア
駐在の英國公使館員

密輸入の嫌疑で検舉される

ルーマニア駐在英國公使館付書記官
エドワルド・アルゲリッヂ氏が密輸入
の嫌疑で首府ダカレストに於て官
憲に拘置されたと云ふ事件が起り
並国外勢は極度に懐張してゐる
が、何分アカレストエリの新聞電
報のこと、委細不明。英國公使エ
リの飛行便による詳報を待つてゐ
る。

シノを運び去つたが、ホテルにて止、痛後モトランク列着也す。翌日ニ至リテ、ニスラフ医警察エリス喫アリ、銀製呑ムトニシブ類を詰めた片密輸入者ウ所有するカレー^チで発見された。この事実と同日警察コは果して前記密輸者ニ同書記官が連繋あるかどうか疑惑を持ち、國下取調べ居るさの如くである。

人が街角に駐車してあつた自分の自動車に乗らんとした刹那、刑事達は逮捕せんと飛びかゝつて行方を失った同人は

櫻	日本茶正規撰印大詮	海	全	赤	福	奈
良	昔の佃煮	の 醤	燒	貝	神	讀
神	醤	燒	一ヶ	"	讀	"
讀	醤	燒	"	"	六	一。
"	大	一ヶ	"	"	六	一。
"	大	二二	"	"	二	一。
"	一六	一〇	一	五	一	一。
千切	一六	七〇	一	一〇	一	一。
青野	一六	八〇	二二	一	一	一。
切	一六	九〇	一〇	一	一	一。
白	一六	一〇	一	一	一	一。

ネオシライトの明滅下に

『コリエントス街の捕物劇』

兵士が木オシの血脉に毒氣の夜か
脈搏をうつ武市欽泉の心臓地帶

端々に至つたと云ふ映画シネマクリ
ク都会的捕物活劇が演じられた：

カルネに吉所有してゐた

三万一千四百五十一

持乞候

コリエンチス第一 時は正に午後九時、街路には夜ともいふれば蟲蟻も如く巣を出で歡樂を譲る群衆、泣笑、そのステップで喧騒極まりぬ、ナニヤズ狂爆曲を奏樂の真最佳所はアホニ劇場の横溝、マルゲリット角舞の大珈琲店の講道で都会の花園の花、賣笑婦賣笑ウブニカーニーが警官と短銃の乱射乱撃、アスフルトを血に染めて断末魔

武市 警察では平てより姫婿亮
買に携る前科者の一圖と
他のギヤンとの間に一人の女三中
心にハザニザが持上り、兩看り向
に今にも血の雨騒ぎが起りかねあ
ハ雲行にある圭を嗅ぎ出しその
方面のキ入に極力心を配つてゐた
が、廿三日午後九時頃三名の私服
刑事は前記街角コンティリニア、ア
木口の舗道の車子にグラックリスト

ためなりな三万二千ペソ
金成乞

食はフリオケランハ「ハモ」と「シラス」
四十年以上も「西面」に食して「歎」
苦したが判りナレからんとゲイシヤ
トウ「公玉鉢」に送られやうとした
心藏海蔵が冥土へ冥遊旅行した。
(移転)後藤三郎氏 *Jozanji Hito*

八月廿五日
余端一
於本校第三回運動會を鑑
午前十時よりルイス・ジョンソン
可致候向御末観の榮と得度
段御案内申上候、

昭和十二年三月廿五日

在亞日本語小學

各位

▲大迫繁造氏宅では廿三日夜三
生母子共健在

名行

在亞日本語小學

中川商店

会館増築後最初の

第十二回 曰会定期總会

愈々明日午後より開催

会館増築後最初の方十二回在重日本人会定期總会は命懸け明廿八日午後二時より同会々館に於て開催されるが、日会では去る廿二日夜本年度最終の臨時役員会を開き他の諸事項と共に、会定期總会並に引継き同催される臨時總会に対する準備工作として役員会提案、其他の事項に付き慎重協議遂げた。

定期總会に於ける答辯

先づ定期總会に於ける質疑應答は例年の如く各部長二名に當りこれと、ぶりたの如く決定。

伊吉、図書部 鈴木驥一郎、贈費部 有水藤太郎、演藝部 塩澤長助、運動部 片山良平、会館管理部 岐岡裕司、会計部 塩澤長助

臨時總会に於ける役員会提案
「役員半數改選任期二年、兩任ヲ許サズ」
案の右參照半數より本委実施の

第五項 改正附記 但シ一年未満ノ役員及会計監査ハ再選ヲ妨げず

アルサコ日小校運動会 記報一束四月四日午前十時より「ルイス・ギジョン」は於てアルサコ日本小学校等三回運動会が行はれるが、当曰は小学校生徒は勿論大人、婦人も参加して約三十種にして当選者未定数はあり役員会構成の結果は推測の予定をきため撤去とあつた。而して会則一部改正は左の如く提案される。

会則一部改正

第四章第十六條 定期總会ハ毎集ニ金務会計、承認ヲ求メ新役員及ビ会計監査、選挙ヲ行フ
改正一定期總会ハ毎年三月之ヲ當集シ金務会計の承認ヲ求メ皆三十九條二款ムル半數ノ新役員及び会計監査、選挙ヲ行フ

この件は既て既に発表されたる所であるが、本件は未だ改選前にして当選者未定数はあり役員会構成の結果は推測の予定をきため撤去とあつた。而して会則一部改正は左の如く提案される。

曰青の辯論大会迫る
○辯士の申込夕多數。

第六章第三十九條 每年一回定期總会二於テヨリ改選、但シ再選ヲ妨げずテヨリ改選ス、但シ再選ヲ妨げず大工指物師 山本玄

リカントーナメントを行つた
塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、
会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

年六月午前九時からアメ

リカントーナメントを行つた

塩澤長助氏 ネレーホ六七二に移転、

会館島林え助氏サンホセセセ二二〇四
に移転(電話二三一八二八六)

会者は各自持参されだし、

日本座球場樂部では昨

27 de Marzo de 1937

El "Argentin Djigo"

Ano XIV no 673 (f)

闻未代前

男が子を産む

の嬰兒

色の黒きを嘆く勿れ
— そは汝の健康質を
證明するものふるが

の色素含有量は大体一定して、受けるものかは黒人である事を実験的にも正しく立証する事が出来ます。かやうにメラニン色素は皮膚の抵抗力を増すばかりでなく、キメの二本がさ、滑らかさを増します。

年が経た、昨年十一月十七日わたしの判らぬ腰痛で安東の病院に入院した、ところが目が悪く、それでだんごく腰がふくれてしまつて、こうこう痛みであります。そこで二月初旬医師がおそろ腹筋を切開すると才ギア

医
け
みか熊の申す事みたいあ嬰兒が
ることは間違ひあい
この子は生れるときの一聲を名残
りに死んでしまつたが、母親(?)
の青年車君は出血甚だしく辛
うじて輸血によつて一命をとり
とめ左

つに皮膚細胞の特殊が働きにあり
産出せられるメラニン色素の多い
少いにそつて決せられるものであ
ることは既に醫學の存在じの通り
で、このメラニン色素の少いときは
は政米人のやうに白い皮膚、青い
眼、栗毛の髪とあり、反対にこれ

思春期の女性の乳首が
缺々と色濃くあり、姫姫
によつて一層黒ずんざくる
腋窩ほど、すべて大切あ部分の
護のために色素が多量に沈着し
るるのであつて、即ち一般的には
素量の多いほど、皮膚の抵抗力

わが日本の女性たちよ
貴女の顔が色白く無い
からといって従うにこれ直ぐもり
はおよし下さい、あなた肌の艶々
と滑らかで、キメのこまかさこそ
誇つて居るべきでありませう。但
しメラニン色素の余りに多過ぎる
は

我がテ杯代表決定――
山岸・西村・中野の三氏

銓衡事情

銓衡事情

のやうに黒い肌となりまたその
中間をゆくものとして吾々東洋
人の黄色い顔があり、かく各人種

若しほじる毒所分布同じ量で各人種の受害に次々と注射するところは、一番その被害を大きく受けたものは西洋人であり、最も少く氏病、或る種の中毒又は過度の日光浴一等は皮膚立病的に黒くさせられたものであります（医学博士福士政一氏）

本年度テ杯度球戦に出場する日本代表選手はかねて日本度球協会で審議を重ねてゐるが、愈よその頃ふれは曾てテ杯度球にして我が度球界の至宝山岸とダブル名ニシニを註はれた西村が起用されシングルスには現ランキンギング第5位にある中野(法政)が三浦、平井、倉光を挑して挑戦され二月一日勝田会長の名を以て発表され左、

主將 山岸二郎(慶應)
西村秀雄(駿院)
中野文照(法政)

◎ミニ西村に至つては慶應時代から之の僚友山田吾氏と共に錬筋津田社長と勝田会長との間に予め約束が交はされてゐたが、協会理事会多くはランキンギングにも入つてゐるが之を起用することは「金さへあれば誰ども行ける」といふ前例によるため考慮を要するとして反対の声が起つた矢先、当の西村は前

左
◎ミシガンは西村・小田西氏は鐘紡サ
ービス、ステーションのニニヨーク駐
在員となり五ヶ年計画に並行し
て数年間滞米することゝあつ
て、夫々の間に全く相挾みの状態に陥つ
たが、その後再三の説得は西村の
決意を見ろに至つたものであり、
山田は率冥上試合出場の機会はふい
ので代表から除外するに至つたも
のである。

珍名簿かう

石田千九三十年
可愛いお嬢ちゃんの名
石田千九百三十年ちゃんは、ここ
しちつゝ可愛いお嬢ちゃんです。自書時、「世界一の名だ」と書い
命名親はさぞモダンぶる父さんだと思ふは向違ひで頭のハゲた
お祖父さんごとあつた。梅木栗佐野
町料理業石田一世さんに生れた
女り子、初々子の可愛いさ、あの
れの名は一世だ。これ以上に素晴らしい名をつけようとハリキシて
考へたが駄目だ。親心のひとすぢ
みちほあり山越へて佐野
から七里も奥にある親父さん
に及んだ。お祖父さんによ
しても初孫の名だ。考へなれ、瞑
サンシエウネン、このはどうも大
した名で、してして、ふんとよ
みますか?』と訊くと、爺さんは
ニヤリと笑つて
『チゲサだよ。いまの若いもん
は無学ぢやない』
大ソレに笑ひやしない。

EL "ARGENTIN DJIJO"

Correo Argentino
Tarifa Reducida
Concesión 718

Buenos Aires, sábado 27 de Marzo de 1937

SECCION CASTELLANA

Dirección: USPALLATA 981 U. T. 23-7051

La posición de la mujer japonesa en la familia

Por Mrs. HAZEL GORHAM

(Continuación del número anterior)

La religión de Buda fué introducida al Japón en el siglo VI y tuvo un desarrollo fácil y rápido. Mas este credo que principalmente concierne con el mundo posterior, no alteró la forma de la sociedad existente. Pero con el Budismo vino la cultura china, la ética confuciana, con su moralidad cívica, instituciones legales, métodos de educación, etc., que causaron profundos cambios en el país, especialmente en la posición de la mujer.

Además, la situación del Japón, que atravesaba una era de disturbios causados por la lucha entre la nobleza de la corte y la milicia, facilitó la adopción de muchas de las medidas chinas, colocando a la mujer en una posición de inferioridad. El jefe de la familia debía ser el padre y en su defecto el hijo mayor, y la mujer perdió la autoridad por completo, a tal punto, que debía obedecer siempre: siendo hija, al padre; como esposa, al marido; y, como madre, ¡al hijo heredero!

No obstante esta tendencia, en la casa Imperial, la mujer sostuvo durante muchos siglos el mismo privilegio de antaño, según demuestra la historia, y dió al Imperio una decena de Emperatrices muy dignas y capaces. Durante la época floreciente en la literatura, la nobleza del Japón produjo numerosas eminentes femeninas que superaron a los hombres.

Luego, con la decadencia de las autoridades civiles y la ascensión del poder militar en el gobierno, la disciplina social, la jerarquía rígida establecida como norma del guerrero, endosadas con las enseñanzas de los sabios chinos, nació el código del caballero y con él, el código de la mujer "Onna-Daigaku", que terminó por humillar a la mujer.

Pero antes que esa doctrina arraigara en el espíritu de la nación, sobrevino el cambio: la introducción de la civilización occidental. La nueva luz pudo iluminar con facilidad en la sociedad japonesa que, por tradición, mantuvo antes la misma doctrina en cuanto a la consideración de la mujer. Es así como se explica la diferencia de la mujer japonesa comparada con las de otros países orientales (y algunos países de Europa en donde predomina la influencia oriental aún en el día de hoy).

El Japón Moderno, la mujer está reconocida como compañera del hombre. En general, su posición no es tan elevada como en aquellos países en donde la mujer goza de respeto especial, pero las madres, hijas y esposas del Japón, no son meras sirvientas del hombre como sucede en algunos países, ni objetos comprados para satisfacer los caprichos varoniles. Además gozan de toda libertad. La mujer japonesa no recibe la galantería superficial del occidente, pero es respetada y considerada por su compañero, pese a la apariencia en su contra que debida a la costumbre feudal que aún no ha desaparecido del todo, está visible por doquier. Se comprueba a menudo que el marido que aparente ser más severo con la mujer

resulta, en realidad el más sumiso y gentil en intimidad. No porque el japonés camine delante de la mujer ni porque no le ofrece la mano para bajar del auto, que no es su costumbre, ha de ser juzgado descortés o cruel con la mujer. Es preciso conocer la realidad de la condición.

En un hogar japonés el padre tiene la autoridad que le concede la ley y las costumbres feudales; pero en la práctica no se hace sentir el rigor de tal. Si la esposa tiene que atender los quehaceres de la casa por falta de servicio, el esposo hace su parte, como cosa natural. No se ha de ver en una casa japonesa, tratándose de gente educada, que el marido o hijo grite en tono imperativo a la esposa o madre para pedir alguna cosa, como sucede suceder en Europa y América misma, sin necesidad de acudir a China o la India, o Turquía, y, que, sin embargo, se creen superiores a otras mujeres.

La mujer japonesa de hoy es, también en la instrucción, igual al hombre. Toda mujer de la clase media en el Japón tiene hoy instrucción secundaria, porque la exigencia social la obliga, y habla con eloquencia su preparación como esposa y madre del siglo XX.

La Mujer Japonesa en las Ciencias

Las actividades de la mujer japonesa abarca hoy todos los ramos de la vida moderna, y, a pesar de cierta indiferencia de las autoridades con respecto a la educación superior y universitaria para el sexo femenino, la voluntad de las estudiosas y la acción privada han triunfado, no sin lucha, imponiéndose por fin al reconocimiento público el valor de la cooperación eficaz de la mujer en las ciencias, como en la docencia y en la industria.

En enero último ha sido honrada con el título de "Hakase" —distinción que equivale a la de "Doctor-Profesor" de Alemania, o sea doctor de los doctores,— a la doctora Hideru Suzuki, catedrática de química en la Universidad para mujeres, Nippon, de Tokio. La doctora Suzuki es la vigésima mujer que es objeto de este supremo honor del mundo científico japonés, habiendo sido la primera, hace diez años, la doctora Yasui, cuyos trabajos en la esfera de la ciencia natural llamaron tanto la atención de los hombres de ciencia, que obligó a éstos a abandonar el prejuicio tradicional contra la capacidad femenina, admitiéndola como apta para ese homenaje institucional y público. Desde entonces, que quedó abierta la puerta para todas las mujeres de estudio, han sido incorporadas en esa fila gloriosa, veinte mujeres: 13 doctoras en medicina, 4 en ciencias naturales, 2 en agronomía y 1 en farmacología.

El número es insignificante al lado de tantos miles de hombres que ostentan ese título; pero, es halagüeño señalar que se mantiene latente la actividad de las mujeres estudiadoras que se dedican con entusiasmo al estudio, afirmando su capacidad intelectual tan injustamente considerada inferior durante muchos siglos.

La mujer moderna del Japón va reconquistando con dignidad la consideración que le dispensara el Japón antiguo.

Partida al Japón del Ministro Argentino Dr. Eduardo Racedo

A bordo del motonave "Augustus", el martes 23 del corriente, partió el Ministro Argentino en Japón, Dr. Eduardo Racedo, en compañía de su familia, con destino a Europa, de donde seguirá el viaje a Tokio para hacerse cargo nuevamente de la Legación Argentina en Japón.

El ministro Racedo, que permaneció una larga temporada en ésta, en donde se enteró de las condiciones del país, y que ha de llevar las instrucciones del gobierno argentino que tanto interés tiene en extender su comercio exterior en los mercados nuevos, va con ánimo de trabajar mucho en pro de una mayor intensificación del intercambio argentino-japonés, que, como es notorio, está adquiriendo importancia cada vez mayor.

La legación Argentina en Tokio tiene, si el jefe de la misión así deseare, tareas interminables para todos los miembros de la representación. Las condiciones de su industria que abarca todos los ramos; sus progresos científicos e institucionales; sistemas de educación; legislaciones modelos; actividades culturales y sociales, y etc., sobre qué informar a la Argentina, a la vez que difundir los conocimientos de ésta entre aquel pueblo que se interesa por todo lo que se relaciona con la Argentina.

La circunstancia es inmejorable para que tenga éxito el ministro Racedo en su misión en el Japón. Ningún ministro argentino ha tenido la oportunidad que le brinda al Dr. Racedo en este momento para realizar la obra que de él espera toda la Nación Argentina, las autoridades del gobierno, agricultores, ganaderos y el comercio.

Las autoridades del Japón lo recibirán con los brazos abiertos y apoyarán cualquier iniciativa que presente a su consideración.

JAPÓN COMPRARA DE LA ARGENTINA LANAS HASTA 50.000.000 DE YENS ANUALES

El aumento notable habido en las importaciones en el Japón de los productos argentinos durante el año 1936, que llegó a 30.000.000 yens, y las elevadas cifras que registran las mismas de los primeros dos meses del presente año, no son simples efectos naturales de las circunstancias, sino frutos de los esfuerzos de los industriales y comerciantes del Japón que persiguen un plan fijado para establecer la base segura a fin de balancear en lo posible el intercambio argentino-japonés que está llamado a conquistar un lugar prominente en sus respectivos comercios de exportaciones.

Para la realización de ese plan, el Japón tiene fijada la cuota de importación de lanas de origen argentino hasta 160.000 fardos, que equivalen alrededor de 50.000.000 de yens.

Sin embargo, no habiendo ningún convenio oficial entre ambos países, y debido al régimen de cambio que dificulta las operaciones comerciales en la Argentina, las exportaciones del Japón para la Argentina se hallan casi paralizadas porque la diferencia entre el cambio oficial y el libre, que oscila más o menos un 20 %, no permiten com-

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR  **RADIO EXCELSIOR**

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolíja - Selección Especial

USE LAMPARA
"YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

:Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 % de azúcar abrillantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduza Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

**UNA MISION ECONOMICA JAPONESA
VISITARA ESTADOS UNIDOS Y EUROPA**

Informaciones de la semana pasada hacen saber que la Federación Económica del Japón, institución que preside el barón Gó, ha resuelto enviar una misión económica de fraternidad a los Estados Unidos y Europa.

La misión será presidida por el señor S. Kadono; de la firma Okura y Compañía, integrada por delegados compuestos por lo más representativo del mundo de los negocios.

EL AVIADOR JAPY

Fukuoka, marzo 23. — Mejorado ya de sus heridas, se dirigirá a Tokio en breve en un aeroplano del diario Asahi.

ANIVERSARIO DEL "RACING CLUB"

Con motivo de la celebración del XXXIV aniversario de la fundación, el "Racing Club" de Avellaneda, ha organizado diversos actos conmemorativos durante la semana pasada. El número fijado para el viernes 26, en el cual estuvo incluida la exhibición de "Kendo", esgrima japonesa, y de "Jindo" o Jiu-jitsu, que llamó la atención del mundo deportivo, atrajo numeroso público que tuvo la oportunidad de apreciar de cerca el arte de

petir con los productos de otros países, que gozan de privilegio aquí, para obtener cambios oficiales.

Si la Argentina insiste en mantener la barrera comercial en perjuicio del comercio japonés, éste volverá a Australia para adquirir allí, como hasta ahora, las lanas que necesita su industria.

defensa propia, cuyo conocimiento se generaliza ahora en todo el mundo.

UNION AEREA ENTRE JAPON Y FRANCIA

Tokio, marzo 20. — El señor Kodama, ministro de comunicaciones declaró en la sesión de la Dieta, que el gobierno del Japón ha aceptado las proposiciones francesas para establecer la unión aérea entre Francia y el Japón.

**NO HABRA DESVALORIZACION DEL YEN,
POR AHORA**

Tokio, marzo 20. — El vice-ministro de Hacienda, señor Kaya, anunció en la Dieta, que el Gobierno del Japón no tiene la intención por ahora de aumentar el precio del oro ni de desvalorizar el yen.

**BANDIDOS EN ACCION OTRA VEZ EN
MANCHURIA**

Tokio, marzo 20 (United). — El corresponsal de la agencia noticiosa Domei en Harbin, anuncia que 500 bandidos sitiaron y entraron en la ciudad amurallada de Ilan, situada a 160 kilómetros al noreste de Harbin, donde cometieron depredaciones contra los edificios públicos, casas particulares, bancos y contra los mismos habitantes. Los residentes japoneses se salvaron huyendo a los cuartellos de las tropas niponas.

Las fuerzas militares rechazaron a los bandidos, persiguiéndolos. En el encuentro resultaron muertos dos soldados. Entre los civiles hubo muchas bajas, cuyo número no se conoce, pero se presume que es elevado. Se enviaron rápidamente refuerzos para dominar la situación.

La misma agencia anuncia que en Tunhua ocho

soldados japoneses derrotaron a cincuenta bandidos, matando a nueve de ellos. De Mukden informan que se libró una lucha en un bosque a 115 kilómetros al noreste de dicha localidad, entre las fuerzas regulares y los bandidos, resultando muerto un soldado japonés y cinco heridos.

**LA ARGENTINA Y LA EXPOSICION DE
NAGOYA**

En nuestro número anterior comentamos la inconcurrencia de la Argentina a la Exposición Internacional de Nagoya, cuando todas las naciones sudamericanas han prestado su cooperación. Las informaciones posteriores nos hacen saber, sin embargo, que, a pesar de que no hubo participación oficial de la Argentina, y gracias a los esfuerzos de las autoridades de la Exposición y empresas particulares del Japón, con la ayuda de la representación oficial del Japón en ésta, la Exposición Pan-Pacífico de la Paz de Nagoya tiene una sección argentina en donde se exhiben muestras de productos de exportación, fotografías, gráficos y datos informativos del país.

Los productos expuestos han sido adquiridos por el señor Abe, gerente de la sucursal de la Compañía de vapores Osaka Shosen Kaisha, en Nagoya, que al mismo tiempo desempeña el cargo de Vice-Cónsul argentino, solicitando a ese efecto la intervención de la sucursal en Buenos Aires, la cual preparó las muestras por intermedio de los exportadores.

También la Secretaría Comercial de la Legación del Japón, por pedido del Intendente de la ciudad de Nagoya, envió a la exposición fotografías y datos gráficos demostrativos de las condiciones de progreso de esta nación.

"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES	A. HANAFUSA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469	F. KANEMATSU y Cia. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824	S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744
K. ANNO The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031	S. YAMADA y Cia. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405	PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PENA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D	LA MAISON SATUMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 44-4392
H. KATO Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1341	IIDA y Cia. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419	M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 35-2683	Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452
SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 3218	R. HARA y Cia. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437	S. ANDO y Cia. Importadores BERNARDO DE IRIGOYEN 143 U. T. Mayo 38-1402	GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193.
KATSUDA y Cia. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313	CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bm6. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782	JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718	CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193.
B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413	S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cia. CANGALLO 499 3er. Piso Escr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390	Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846	CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. — U. T. 33-1452.
I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051	TARO MURAI Unica Casa Introductora de Porcelana NORITAKE MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-8189	K. YASUNAGA Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769	INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.
			ASOCIACION JAPONESA: Pata-gones 840. — U. T. 23-4893.
			COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: Cangallo 462. — U. T. 33-1051 y 1052.